

平成29年度 地域貢献活動支援報告書

地域イノベーション推進機構長 殿

所 属 生物資源学研究科

氏 名 松井隆宏

活動テーマ	東紀州サテライトを拠点とした地域プロジェクト型インターンシッププログラムの開発
実施期間	平成29年 5月 1日 ~ 平成30年 3月31日
活動内容	<p>(1) 具体的な活動実施内容</p> <p>東紀州地域では地域外へ流出する若者人口が激増し、少子高齢化がすさまじい勢いで進行している。地域の中小企業では企業ニーズにマッチした人材を確保することが著しく困難な現状がある。このような状況の中で本活動では、東紀州地域の企業・行政などと協力して、中～長期の地域プロジェクト型インターンシッププログラムを開発する。短期間の体験型のインターンシップは多く見られるが、このようなタイプのインターンシップでは「地域に就職する」という熱意や決意を生むことは極めて難しい。企業・大学それぞれに「地域に若者を定着させる」効果的なインターンシップとはどのようなものか、経験やアイデアがなかったり、プログラムが存在しなかったり企業・大学の情報交換が不十分であり、そもそも効果的なインターンシッププログラムの立案が困難である。」といった背景がある。本活動では、東紀州サテライトを拠点とし、東紀州地域の元気な企業とともに、地域プロジェクト型の効果的なインターンシップの設計と計画立案を行うことを目的とする。具体的には、東紀州地域の中小企業と連携し、以下のプロセスを経て企業ごとに効率的に必要な人材を獲得することができるインターンシッププログラムの構築を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①地域や企業の課題を解決するプロジェクトの共同設計、その上で、インターンシッププログラムの共同設計 ②東紀州サテライトを拠点とし、大学と地域・企業が共同で実施するインターンシップづくりの仕組みの計画化（情報共有・公開のしくみや、インターンシップ登録・協定制度などのしくみ） ③三重大学の学生への効果的・有効なインターン募集・登録のしくみの構築 ④インターンシップ参加者への就職支援制度の確立 ⑤こうして成果が得られるまでのプロセスを集積し、それぞれの企業に見合ったインターンシッププログラムを容易に生み出せる仕組みをパッケージ化する。 <p>(2) 地域への貢献（地域の発展・活性化への寄与、広がり）</p> <p>効果的な地域プロジェクト型インターンシッププログラムが構築され</p>

れば、中小企業にとって必要な人材獲得の基盤掲載が図られ、地域の人材確保に繋がる。また、本学にとって、東紀州地域における中小企業等への就職および当該地域への定住を希望する学生、地域で活躍する人材を生み出すことが期待できる。

(3) 共同実施者との連携状況

平成29年度開始時点で、この構想へ賛同していただいた共同実施者は、東紀州地域で中心的に活躍する NPO 法人天満荘百人会、株式会社夢古道おわせ、尾鷲物産株式会社、かきうち農園、株式会社ディーグリーン、尾鷲金盛丸、であった。また、三重県尾鷲農林水産事務所からの理解が得られている。ここに、野地木材工業株式会社、有限会社貞丸水産、株式会社河本こうじ屋が新たに加わり、新年度での実施体制を強化している。平成30年度からの具体的なプロジェクト進行時には、これら企業との共同研究契約を締結した上で実施する予定である。

(4) 大学の教育・研究成果のかかわり

申請者は東紀州サテライト兼任教員であり、平成29年度の社会調査演習を東紀州地域で実施したほか、東紀州地域で展開されている多数のプロジェクトに関与している。インターンシッププログラムの、三重大学での公開・募集のほか、今後プログラムの核となる地域課題の解決に向けて、他の三重大学教員との連携も検討し、大学シーズを当該地域で有効に活用していく。

(5) イベント等開催実績（名称，実施場所，参加人数等）

平成30年度へのプロジェクト立案と実施に向けた体制づくりおよびプロジェクト内容の検討のため、以下の打ち合わせを行った。

平成29年8月1日

場所：東紀州サテライト東紀州産業振興学舎

参加人数：17名

平成29年8月5日

場所：夢古道おわせ

参加人数：3人

平成30年2月5日

場所：夢古道おわせ

参加人数：6人

平成30年2月12日

場所：夢古道おわせ

参加人数：3人

平成30年3月1日

場所：株式会社ディーグリーン

参加人数：4人

平成30年3月6日

場所：夢古道おわせ

参加人数：9人

平成30年3月14日
場所：夢古道おわせ
参加人数：8人

(6) これまでの取組みによって得られた具体的な成果について

※継続4年目以降（認定）の活動については、これまでの継続した取組みによって得られた具体的な成果について記述願います。

平成29年度の取組みで、具体的なプロジェクト実施に向けた体制が整った。現在このプロジェクト設計を行なっているところであり、平成30年4月内でのプロジェクト決定と、5月～6月での学生募集を計画しており、今夏実施予定である。